新宿区男女共同参画情報誌

ウィズ新宿

No.124
2016・6

男女がお互いを尊重し、その人らしく生きる。
仕事も暮らしも楽しむ。
そんなあなたを応援する情報誌です。

特集

平成27年度 男女共同参画フォーラムを実施しました
うれしいことも つらいことも 自然体で
～水泳から学び、伝えたいこと～

P4 ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰
P6 DV（配偶者等からの暴力）とは？
P8 悩みごと相談室 相談員からのメッセージ
P9 講座レポート 「わたし」を創る ―林芙美子とジェンダー
P10 インフォメーション 新宿区子ども未来基金にご支援を
P11 国の「第4次男女共同参画基本計画」が策定されました

平成27年度

男女共同参画フォーラム

日時 平成28年２月20日㈯

会場 四谷区民ホール

オープニングアトラクション
ボーカル＆手話パフォーマンスグループ
HAND SIGN（ハンドサイン）

第一部
ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰式

第二部
講演　岩崎恭子
うれしいことも つらいことも 自然体で
～水泳から学び　伝えたいこと～

パフォーマンス中のHAND SIGN（ハンドサイン）

２月20日（土）、男女共同参画フォーラムが行われました。

さまざまな人々が個人として尊重される社会をめざして、区民による実行委員会と区が協働で企画・運営しているフォーラム（22年度まではシンポジウム）は今回で17回目となります。

オープニングのアトラクションはHAND SIGN（ハンドサイン）による歌とダンスと手話を融合させたパフォーマンス。来場者も手話のレクチャーを受けて歌い踊り、会場一体となって楽しむことができました。ダンスに手話を取り入れるというスタイルを初めて見たという方が多く、「手話をやってみたい」「手話のイメージが変わった」などの感想が寄せられました。

第一部 ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰式

今回で７回目を迎える優良企業表彰では、申請企業の中でも特に優れた取組みを行っている３社に吉住健一区長から表彰盾が贈られました。受賞のコメントは４ページをご覧ください。

会場からは「企業のさまざまな事業を知る機会になった」「このように前向きな取組みが増えていってほしい」などの声とともに、あたたかい拍手が寄せられました。

第二部 うれしいことも つらいことも 自然体で

岩崎さんは14歳で出場したバルセロナオリンピック競泳２００m平泳ぎで、日本史上最年少の金メダリストになりました。98年の引退後は児童の指導方法を学ぶためにアメリカへ留学。現在はスイミングアドバイザーとして、水泳の指導のほか水泳の楽しさを伝えるためのイベント出演や、スポーツコメンテーターとして活躍をされています。

講演開始前、岩崎さんの紹介ＶＴＲで当時の競技の映像やインタビューが流れました。それを見た参加者からは「14歳で金メダリスト！すごい！」（10代）「懐かしい」（30代）「素晴らしい快挙だった」（70代）との声が上がりました。

そしてＶＴＲ終了後、壇上に上がった岩崎さんの「水泳から学んだことをお話ししたい」との言葉から講演がスタートしました。

岩崎さんは静岡県沼津市の生まれ。静岡はフジヤマのトビウオと呼ばれた古橋廣之進さんの出身地です。40年位前から町にはスイミングスクールがあり、３歳上のお姉さんが先に通っていたそうです。岩崎さんは５歳の時にスクールへ入りました。

初めから泳ぐのが早かったわけではなく、目標タイムの設定、進級テスト、記録会、市の大会から全国大会までステップアップできるということが自分に合ったのではないかと話していらっしゃいました。また「姉の記録を更新することが快感でした」というエピソードには、会場の皆さんから笑みがこぼれました。

バルセロナオリンピックに出場

「オリンピックの選考会では私が２位、姉は４位。家族ですからギクシャクはしませんでしたが、出場を手放しで喜べないまま、代表合宿に入りました」合宿では何も考える余裕もなく、１日に２回、８千～９千メートルを泳ぐ毎日。とにかくやらなくてはという気持ちで自分を追い込み、しっかりと練習を積んだことによって自信を持ったそうです。

当時の世界記録は２分25秒。岩崎さんは２分31秒。いつも通りやろうと、予選のスタート台に乗り、１００分の１秒差で２位。10年間破られなかった日本記録も２分27秒で更新できたのです。

決勝前に鈴木陽二ヘッドコーチからの助言に救われて無心で臨むことができたエピソードなどに「実際に体験した選手のお話に感銘を受けました」（70代）など、言葉の重みと強さを会場の皆さんは感じられたようです。

決勝が終わった後はやり遂げたという感覚はなく、ただびっくりしたという岩崎さん。競技後の素直な思いで語った「今まで生きてきた中で一番幸せです」というコメントに対する反応につらい思いをしたこと、金メダルを取った後はいろいろなことに傷付き、記録も悪くなって大会に出ることができなかったことなど、つらい経験もはっきりと話して下さったことが印象的でした。

高校1年の時に行ったアメリカ遠征がきっかけで、水泳が楽しいという気持ちを思い出し「人からなんと思われてもいい。応援してくれる人、分かってくれる人がいればそれでいい」と思うことができ、アトランタオリンピックに出場することを決めたそうです。参加者からは「あの時は私も心を痛めてました」（60代）「何事も自分から行うこと、素直さの大切さが分かりました」（70代）などの声が寄せられました。

また、5歳になる娘さんの子育てと仕事、自分も時間に追われながら生活していること、ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰式を見て感じたことなどについてもお話しいただきました。

「泳縁（えいえん）」を大切に

最後に2020年開催の東京オリンピックについて触れられ「オリンピック、パラリンピックは選手のものでも関わっている人たちのものでもありません。ぜひたくさんの感動を感じてもらいたいです」と笑顔で熱く語りかけられました。

そして、大学の先輩である木原光知子さん（故人）が「泳（ぐ）縁」と書いて「えいえん」と読む言葉を残して下さったというお話は、「心に響くキーワードでした」（40代）という感想に象徴されるように、多くの参加者の心に残りました。

「泳ぐ縁を大事にしながら、さまざまな活動をしていくことが、いろいろな人への恩返しになると思っています。皆さんもご縁を大切にしてください」という結びの言葉に、会場はたくさんの拍手に包まれました。

岩崎さんに教えていただいた「うれしいことも　つらいことも　自然体で」という言葉が私たちの心に刻まれた1時間でした。

実行委員会からの一言

何度も実行委員会を重ね、フォーラム開催の準備を行った実行委員の皆さんから感想をいただきました。

啓発活動の目的観を共有するために、「新宿区男女共同参画推進条例第11条」を学ぶことができました。講師の岩崎さんは“ありのままの心で諦めない生き方”を貫いてきた体験を語って下さり、啓発事業に参画できたことを嬉しく思いました。　（石田孝子）

＊　＊　＊

ゲイの当事者として、フォーラムにLGBTの講話者を呼びたいと思っていましたが、今回は叶いませんでした。世界的に有名な新宿二丁目を抱える新宿区からLGBTに向けて、より肯定的なメッセージが発せられる日が来るのを楽しみにしています。　（大塚隆史）

＊　＊　＊

2度目のこのフォーラムを通し、また昨年度とは異なった沢山の学びと気付きをいただきました。今以上に男女が共に活躍する社会の実現に向けて、さらに学びを深めていきたいと思います。このフォーラムに関わるすべての方への感謝を込めて。　（小澤珠美）

＊　＊　＊

久しぶりに実行委員会の席に座って、会議の進行になじめず今浦島の感を深くしました。また、講師の選定について、委員の持ち寄った候補者ひとりのプレゼンにもっと時間をかけて、候補者に対する委員の認識を共有すれば良かったと思いました。（加藤登美子）

＊　＊　＊

2度目の参加でしたが、委員の方々と多種多様な意見交換ができ、視野が広がったと感じました。当日は岩崎恭子さんの、タイトルどおり自然体の飾らない率直な経験談に力をもらい、ハンドサインの方々には、手話の可能性を見せていただきました。　（加藤秀子）

＊　＊　＊

実行委員会では、講演を依頼する方、どのようなお話を伺いたいか、その内容について話し合いました。実行委員の方々は年齢幅も広く、社会経験豊かでご自身の考えをしっかり持っており、会議を重ねることでお互いを理解しあうことが出来ました。（川端喜美）

＊　＊　＊

ひとりでも多くの区民の方に参加していただきたく、議論を重ねます。講師との交渉を繰り返し、決定に至るまで気を抜けません。岩崎恭子さんは輝ける経験を生かし、指導者としてワーキングマザー、母親としての素顔も垣間見え、親しみを感じます。手話パフォーマンスは、活気に満ちたアトラクションでした。　（君塚礼子）

平成27年度
新宿区

ワーク・ライフ・バランス推進優良企業

が表彰されました

今回表彰された３社を受賞のコメントとともにご紹介します。

ワーク・ライフ・“ベスト”バランス賞

バランスの取れた取組みを行い、実績のある企業

大日本印刷株式会社

主な事業内容：総合印刷業

表彰のポイント

「働き方の変革」活動による時間外労働の削減を実現。「仕事と育児の両立プログラム」の取組みにより女性職員の離職率の低下や、育休後に職場復帰した女性社員に対して女性育児経験者が相談に応じる「メンター制度」を設けて円滑な職場復帰をサポートしている。

受賞コメント

印刷業は受注産業でありますので、お客様の指定される納期等を守ることが使命と心得ていますが、そのため長時間労働体質とも言われておりました。そのような中で「このままではいけない」「社員が働きがいを持ち、ワーク・ライフ・バランスを推進することが企業の持続的成長につながる」と使命感をもち、働き方の改革を進めています。

大きな目的は時間外労働を前提としない働き方を確立すること。もうひとつは女性の活躍です。かつて結婚・出産後に退職してしまう実態がありましたが、ここ数年の取組みによりまして、みんな職場復帰するようになりました。今後は男性社員も育児休暇を取れる社風にしていきたいと考えています。また、女性管理職の育成にも力を入れています。

介護支援につきましては、仕事と介護を両立するためのセミナー・個別相談会を行っています。

また地域貢献、次世代育成についても取り組んでいます。新宿区をはじめ全国の小学校で出張授業を行っています。当社ならではのデジタル技術を活用した教材等を用意し、社員が授業を行うものです。

このような活動が今回バランスのとれたものとご評価いただけたと、光栄に存じております。今後とも一層取組みを進めてまいりたいと思います。

ワーク・ライフ・バランス アイディア賞

独自の取組みを行い、実績のある企業

株式会社日本政策金融公庫 新宿支店

主な事業内容：金融業

表彰のポイント

女性職員の育成をテーマにした啓発冊子「Rashiku 活躍する女性部下を育てる管理職編」を作成し、管理職の意識改革を進めている。育児休業者に対してモバイル端末を貸し出し、休業中でも情報共有を行い職場復帰に対する不安解消に取り組んでいる。

受賞コメント

ワーク・ライフ・バランスにつきましては、日本政策金融公庫においても重要な柱と位置づけ、経営骨子には働きがいのある職場づくりをかかげています。

公庫が政策的支援を果たすために地域社会に信頼され、貢献できるしっかりした組織、足元を固めていくそのために職員一人ひとりが生き生きと働き続けられる職場であることが何よりも大切だと認識しています。

公庫の組織目標として、女性活躍の推進、職場環境の向上をかかげ、様々な目標数値をモニタリングしながら働きやすい職場づくりに取り組んでいるところです。

これらの共通した取組みのほか、新宿支店におきましてはトップダウンでなく、職員全員でワーク・ライフ・バランスの実現を議論し、一線で活躍する女性経営者を招いた勉強会を企画、開催しました。仕事の質を落とさない業務の効率化により、休暇取得を増やすプラスワン運動を展開する等、ボトムアップの活動に取り組みました。

このたびの表彰は本店と支店が一体となり、支店職員の一人ひとりが働きやすい職場づくりを考え、行動していることが評価されたと考えています。これからもより一層ワーク・ライフ・バランスを追求し、地域社会から信頼される金融機関として努力を重ねてまいります。

ワーク・ライフ・バランス特別賞

前年と比較し著しい成果を挙げたことが認められる企業

コネクシオ株式会社

主な事業内容：携帯電話の卸売・販売等

表彰のポイント

「働き方改善プロジェクト」を立ち上げ、総労働時間の削減や好事例の共有を行い、社内イントラ等で周知している。新宿区のコンサルタント派遣を活用し、男性の育休取得推進や短時間勤務者の活動支援について検討し、店長向けの啓発セミナー等を実施した。

受賞コメント

携帯電話ショップでは多くの女性が働いています。お客様のニーズは日々多様化し、単純に商品を説明してお客様にお渡しすればいいというものではありません。いろいろな勉強をし、高いスキルを身につけたスタッフに一日も長く働き続けてもらうためにも、仕事と家庭を両立できるような環境づくりを進めてまいりたいと思っています。

これを実現するために、一昨年から「働き方改善」の活動をスタートしました。「仕事はしっかりやる。プライベートもしっかり楽しむ。」それがあって初めて、よりクリエイティブな仕事ができると思い、取り組み始めました。全国にある多くの携帯電話ショップは365日営業のため連続した休暇の取得が難しい時もあるのですが、スタッフたちが自ら考え、仕事も私生活も懸命に取り組んでいる姿を、大変力強く感じています。

ワーク･ライフ･バランスの推進により企業は成長できる、という考え方のもと、これからも活動は進めてまいります。

この会社で働き続けること、成長を実感できること、幸せな家庭をつくること、働くことに誇りを持つこと。当社で働きたいと一人でも多くの方に思ってもらえるようになりたいと考えています。

今回の受賞を励みに、また一層レベルを上げるべく、頑張ってまいります。

吉住健一区長から受賞企業の皆さんへ

表彰された企業の皆さま、おめでとうございます。皆さま方の活動は、組織においてワーク・ライフ・バランスを進めていく上で、お手本となる例がたくさんありました。日々ご努力を重ねられ、社員教育のさまざまなノウハウを蓄積されてこられたことに、心から敬意を表します。

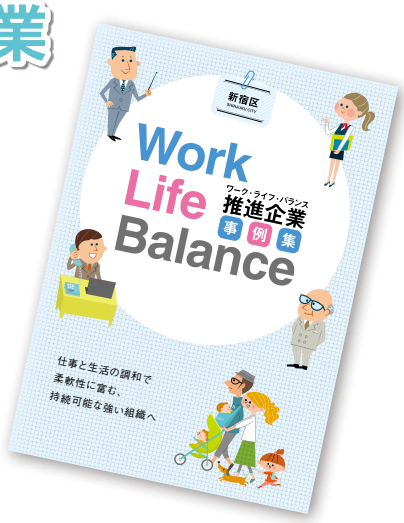
区長と受賞企業の皆さん

ワーク・ライフ・バランス推進企業事例集を発行しました

公益財団法人日本生産性本部と協働して、新宿区が認定したワーク・ライフ・バランス推進企業の中から10社の優れた取組み事例を紹介する冊子を作成しました。既に取組みを進め、またはこれから取組みを進めようとする企業や担当者そして働く人へのヒントが満載です。広く区民の方もご活用ください。

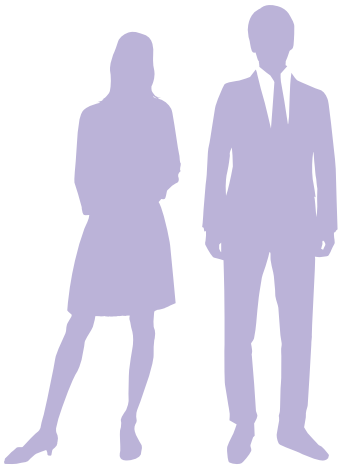
この事例集は男女共同参画推進センターで配布しているほか、「新宿区ワーク・ライフ・バランス推進応援サイト」からも入手することができます。

http://www.shinjuku-wlb.com/　新宿　ＷＬＢ　応援　検索



DV（配偶者等からの暴力）とは？

ＤＶとは、ドメスティック・バイオレンス（domestic violence）を略したもので、「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった相手から振るわれる暴力」を意味します。



これらの暴力は多くの場合、単独ではなく、複数の暴力が重なって行われます。暴力はその対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。一人ひとりが暴力について正しく理解し、「お互いを尊重しあう意識」と「暴力は許さないという意識」を持つことが大切です。

暴力の形態は様々です

身体的暴力
殴る、蹴る、髪を引っ張る、引きずりまわす、物を投げつける、病院に行かせない　など

精神的暴力
大声でどなる、暴言を吐く、おどす、何を言っても無視する　など

経済的支配
生活費をわたさない、外で働くことを禁じる、金銭的自由を与えない　など

性的暴力
性行為を強要する、避妊に協力しない、見たくないポルノビデオ等をみせる、異常な嫉妬　など

社会的暴力
人前で侮辱する、交友関係等を制限する、行動を監視する　など

子どもを利用した暴力
子どもに危害を加えると言って脅す　など

ＤＶが被害者へ与える影響

ＤＶを受けている被害者は、ケガなどの身体的な影響を受けるだけではなく、いつ暴力を振るわれるか分からないという不安や恐怖で精神的にも大きなダメージを受けます。また、繰り返し暴力を受けることによって、「自分が悪い」という思いが強くなり、自分に自信が持てなくなることもあります。

家庭内で起きているＤＶは、被害者の行動が制限されていることが多いため、社会的にも孤立し、問題が表面化せず長期にわたって暴力を受けていることがあります。その場合、暴力から逃れても精神的ダメージが大きいため、心身共に回復し、自立して生活できるようになるまで非常に多くの時間が必要となります。

「配偶者暴力防止法」で守られます

平成13年に制定された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」は、配偶者からの暴力の防止及び被害者を保護・支援するための法律です。

平成25年の改正では保護及び支援の適用対象が拡大され、生活の本拠を共にする（した）交際相手からの暴力にも、この法律の規定が準用されることになりました。

ひとりで悩まず、相談してください

相談窓口	電話番号	受付日時
内閣府DV相談ナビ ※お近くの相談窓口を案内します。	☎0570（0）55210 （一部のIP電話等からはつながりません）	24時間
新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室 ※男性からの相談も受け付けています。	①電話相談 ☎03（3353）2000 ②男性相談員による電話相談 ☎03（3341）0905 ③面接相談予約 ☎03（3341）0801	①午前10時～午後3時30分 （日、祝日、年末年始を除く） ②土曜日 午後1時～3時30分 （祝日、年末年始を除く） ③午前8時30分～午後5時 （日、祝日、年末年始を除く）
新宿区役所第一分庁舎2階 区民相談室	①電話相談 ☎03（5273）3646 ②面接相談予約 ☎03（3341）0801	①月曜日 午前10時～午後3時30分 （祝日、年末年始を除く） ②午前8時30分～午後5時 （日、祝日、年末年始を除く）
新宿区生活福祉課　女性相談	☎03（5273）3884	午前8時30分～午後5時 （土、日、祝日、年末年始を除く）
東京ウィメンズプラザ（配偶者暴力相談支援センター）	☎03（5467）2455	午前9時～午後9時 （年末年始を除く）
東京都女性相談センター（配偶者暴力相談支援センター）	☎03（5261）3110	午前9時～午後8時 （土、日、祝日、年末年始を除く）
警視庁総合相談センター	☎03（3501）0110	24時間

★夜間や緊急の場合は、警察（110番）、東京都女性相談センター☎03（5261）3911へ。

パープルリボン運動について

パープルリボンは、女性に対する暴力根絶を訴える啓発活動の象徴です。

この運動は、世界を子どもや暴力の被害者にとって安全なものにすることを目的として、アメリカの小さな町で暴力の被害を受けた人たちによって生まれました。

紫色のリボンであれば、どのような形でもよく、それを身につけることでパープルリボン運動の主旨への賛同を表明することができます。

新宿区では「男女共同参画フォーラム」のほか「若者のつどい」「女性に対する暴力をなくす運動」（毎年11月12～25日）の期間中にも実施しています。

▼27年度フォーラム実行委員会で話し合い、「ハト」のデザインに暴力防止へのメッセージを託しました

▲パープルリボン運動への参加を呼びかけました

▲DV防止啓発講座も開催しています

悩みごと相談室をご利用ください

日曜・祝日を除く毎日、悩みごと相談を行っています。自分自身の生き方・働き方、心や性の問題、家族との関係、職場や地域でのトラブル、法的解決のアドバイスまで、幅広い相談に対応しています。

相談は無料、秘密は固く守ります。お気軽にお電話ください。

★電話番号・受付日時は７ページをご覧ください。

土曜日担当の相談員からメッセージをいただきました

木南絵里（キャリア・コンサルタント）

悩みごと相談室には、日々、いろいろな悩みを抱えた相談者が訪れます。相談に対応する際、私が心がけているのは、じっくりと相談者の話を聴くこと。相談者は、解決策を求めている場合もありますが、その前に相談者のコップの水をすっかり空っぽにすることが大事なのです。水がいっぱいの状態では、こちらの助言や提案はコップに収めることはできず、溢れてしまうでしょう。コップの中を空にするだけでも、悩みの半分は解決されるといいます。相談される方は、悩みや思いを余すことなく話してみてください。

明けない夜はありません。必ず、朝が来て、陽の光があなたに降り注いでくれます。その一筋の光として、この相談室という存在があると考えています。

佐藤圭子（産業カウンセラー・家族相談士＊）

平成27年12月より、ウィズ新宿「悩みごと相談室」の相談員として、家族や職場の中での問題を中心に担当しています。これまで子どもと家庭を支援する仕事をしてきました。その中で、女性が仕事を持ち、結婚し、子育てする条件は揃いつつある一方、様々な葛藤を抱え、誰にも相談できずに悩んでいる方はむしろ増えているのを感じました。辛い時、一人で抱えこまず、まず相談してみてください。もやもやした気持ちも、言葉にだすことで整理ができ、心の中に新しい考えや方法を取り入れる余裕が出てくるかもしれません。仕事、子育ての悩み、虐待、ＤＶ、子どもの自立に伴う問題、親の介護など職場や家族の人間関係の中で起こりうる様々な問題の解決に向けて一緒に考え、サポートしていきたいと思います。

＊家族相談士…子育ての悩み、虐待、親の介護等、家族が直面する様々な問題の解決に向けて一緒に考えサポートします。

白倉憲二（元家庭裁判所調査官）

平成28年４月から、ウィズ新宿の「悩みごと相談室」の相談員になりました。区民の方々のお役に立てることを、大変うれしく思います。どうぞよろしくお願いします。

私は、40年余り、家庭裁判所の調査官として、また、民間相談機関の相談員として、家庭内の悩みごとの解決や少年非行の問題に携わってきました。

誰でも、悩みごとがありますと、心が晴れず、自問を繰り返します。そのようになったとき、相談員に悩みごとを話されますと、少し霧が晴れるように先が見えることがあります。私は、皆さまの悩みごとを聴き、その解決方法を一緒に考えることで、お役に立ちたく思います。お待ちしております。

●男女共同参画講座

「わたし」を創る
―林芙美子とジェンダー

講師・金井 景子氏
（早稲田大学教育学部教授）

「放浪記」「浮雲」の作家、林芙美子の生き方を通して、ジェンダーについて早稲田大学教育学部教授の金井景子先生にお話をいただきました。

3月26日（土）、「昨日は大学の卒業式でした」とお話をはじめられた金井先生は、明るく元気、時には笑いも誘う魅力的な語り口で、参加者は冒頭から一気に引き込まれました。

3つの柱、1「放浪記」の頃、女成金になりたい、2「北岸部隊」と「戦線」の頃、前線に立つ女流作家、3「浮雲」と最後のメッセージ、「わたし」を作り直す、を中心に、その時々の林芙美子の写真、ワークショップを交えながらのお話でした。

林芙美子が生まれた明治後半は、良妻賢母の考え方が日清日露の2つの戦争の中でより強化された時代であり、女性が社会に出てお金を稼いで自分の意思で職業を選ぶという夢が可視化されたのは、大正期になってからでした。女性を雇う理由は「支配しやすい」「安い賃金ですむ」「男子に比べ女子の犯罪数が少ないため、お金の着服が少ない」「兵隊に取られない」。このようなことから、女性が職業婦人として歓迎されるようになります。そんな時期に林芙美子は貧しさからの脱却を願い「女成金になる」という野望を持ってあらゆる職業を経験します。頑張ってもうまくいかない経験を繰り返し、日々の悔しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったことなどを綴った日記や詩が元になった「放浪記」がベストセラーとなります。その後も甘んじることなく、夫である画家手塚緑敏（通称りょくびん）を残し、単身でパリ遊学し先行投資します。その間も家族のことを気遣い仕送りもしていました。「頭の中に長編が、ここに金が入っているんだから心配せずに、帰ったら書くから」という手紙を単身先から夫に出しています。現代でも、これだけのジェンダーフリーは少ないのではないでしょうか。

太平洋戦争勃発後は、新聞社の特派員として現地に就き、北岸部隊の戦線に随行して特ダネを書き、国家レベルで求められる存在となります。けれども信じていた聖戦が、現実は侵略であり搾取という側面を持っていたことに気付いた時、戦後に伝えるべきこととして過去の自身を引き受けて生き直します。

明治、大正、昭和と駆け抜けた林芙美子。

「男性ジェンダーの究極と言ってもいい兵隊並みの働きをして、ジェンダーにいち早く気付く。女性が、男性が、そんなことするはずのない所に行った人がものすごい真実を掴んでいることがある。経験しているものに、囚われのジェンダーから解放される、そのカギがある。同時にどんどん解放されて男並みになったらいいかというと、大きな落とし穴が待っている。そのことも含めて林芙美子と言う人は私たちに示してくれている。最下層に生まれても身を落とすこともなく、日本の文化人としては頂点を極め、旺盛な作家生活の中で大量のメッセージを残している。その遺産を私たちがきちっと受け取っていかなければいけない。」と金井先生は語ります。

そして「共に社会を生きて行く人たちが、歴史的な背景のもと、現状をどう変えて行くかということに想像力を持たないと、いろんな局面できしみが出てくる。こういう生き方をしたら幸せというものが今も昔も一つではない。それぞれの人たちに課せられるジェンダーは多様。いまの社会の多様化している価値観に対して、公共の教育機関でももっと柔軟に、「いいね」「だめだよ」と意見を交し合えるような環境作りをしていくことが大切なのでは？」とのお話に、参加者は熱心に聞き入りました。

林芙美子の生涯を通し、これからの生き方や、ジェンダーに対する意識を見つめ直す良い機会となりました。

林芙美子記念館のご案内

林芙美子記念館は、昭和16年８月から昭和26年６月28日に生涯を閉じるまで林芙美子が住んでいた家です。

大正11年に上京して以来、昭和５年に落合の地に移り住み、昭和14年には、新居を建設し始めました。

客間よりも生活空間に工夫と贅を凝らした家は、創作活動と同様に生活を大切にした林芙美子の思いを随所に見ることができます。

資料提供先 新宿歴史博物館

利用案内

所在地　〒161－0035 東京都新宿区中井２－20－１
電話　03（5996）9207
開館時間　午前10時～午後４時30分（ただし入館は午後４時）
休館日　月曜日（月曜日が休日にあたるときはその翌日）年末・年始（12月29日～１月３日）

新宿区子ども未来基金にご支援を

区は平成28年４月、子育て家庭の福祉の向上を図り、子どもたちの生きる力を育むため、「新宿区子ども未来基金」を設置しました。皆さんからの寄附金を積み立てて「子ども未来基金」とし、子どもの育ちを支援する区民等の自主的な活動に資金を助成します。皆さんのご支援、ご協力をお願いします。

新宿区子ども未来基金を設置しました

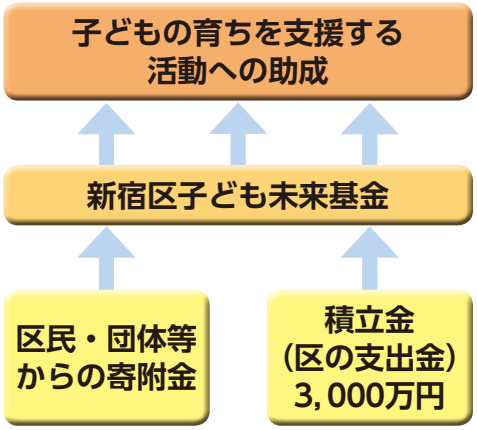
基金の概要

- 平成28年度積立金　3,000万円
- 助成金　300万円
- ひとつの活動への助成は30万円を限度とし、対象経費の４分の３を助成

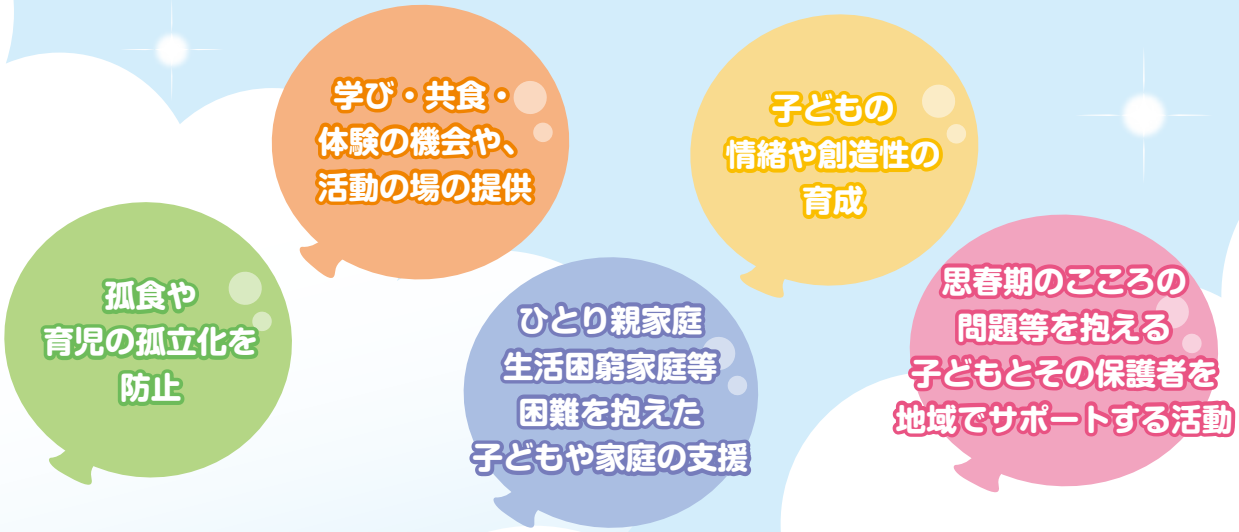
助成対象活動

- 「学び」「共食」「体験」の機会、「活動の場」の提供、子どもの情緒や創造性の育成、孤食や育児の孤立化を防止する活動
- 「ひとり親家庭」「生活困窮家庭」など、困難を抱えた子どもや家庭を支援する活動
- 子どもの発育発達や不登校、思春期のこころの問題などを抱える子どもとその保護者を地域でサポートする活動

子ども未来基金の概要



子どもの育ちを支援する活動に助成を行います



新宿区子ども未来基金に寄附をお寄せください

【窓口にお持ちいただく場合】

子ども家庭課企画係、子ども総合センター、男女共同参画推進センター、特別出張所へお持ちください。（平日午前８時30分～午後５時）

【金融機関で納付される場合】

電話で子ども家庭課企画係へご連絡ください。納付に必要な書類を郵送します。

【問い合わせ】 新宿区歌舞伎町１－４－１　新宿区役所２階17番窓口
子ども家庭部子ども家庭課企画係　☎ 03（5273）4261　FAX 03（5273）3610

国の「第4次男女共同参画基本計画」が策定されました

国の男女共同参画会議は平成27年12月「第４次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方」を答申、それを踏まえて本計画が策定されました。

基本的な考え方

1. 男女が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できる、多様性に富んだ豊かで活力ある社会
2. 男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会
3. 男性中心型労働慣行等の変革等を通じ、仕事と生活の調和が図られ、男女が共に充実した職業生活その他の社会生活及び家庭生活を送ることができる社会
4. 男女共同参画を我が国における最重要課題として位置付け、国際的な評価を得られる社会

4次計画において改めて強調している視点

- あらゆる分野における女性の活躍
- 安全・安心な暮らしの実現
- 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備
- 推進体制の整備・強化

これらの視点を踏まえたうえで、12の分野を掲げ、それぞれに「施策の基本的方向と具体的な取組み」を設定しています。

新宿区では「第二次男女共同参画推進計画」を策定し、総合的かつ計画的に実施しています

平成28年度から29年度までを計画期間とする「新宿区第三次実行計画」との整合性を確保するため、平成27年度に事業内容や指標の見直しを行いました。

＊　＊　＊　＊　＊

見直しにあたっての課題として「女性の職業生活における活躍の推進の強化」「LGBT等性的マイノリティについての理解の促進」「女性の視点を活かした防災対策の更なる推進」そして、今号で特集しました「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の支援に向けた体制強化」の４点が挙げられました。

＊　＊　＊　＊　＊

「第三次男女共同参画推進計画」は平成29年度に策定します。策定に向け、区民の皆さまから幅広くご意見をいただきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

男女共同参画社会の実現に向けて

男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会を形成することを目的に「男女共同参画週間」（６月23日～29日）が実施されています。

今年度のキャッチフレーズは、

意識をカイカク。
男女でサンカク。
社会をヘンカク。

です。

職場や学校・地域・家庭で、私たち一人ひとりの取組みが大切です。

男女のパートナーシップについて、この機会にみんなで考えてみましょう！

本の紹介

『銀幕のハーストリー ～映画に生きた女たち～』

松本侑壬子／パド・ウィメンズ・オフィス

「映画に登場する女性の大半は、男性の目線で描かれている。」と感じた作者が、女性という視点から映画について記した１冊です。ジャーナリスト出身の作者ならではの的確なデータの活用法、工夫を凝らした章立て・リズミカルな章題の付け方で展開していきます。

映画に描かれたヒロイン像の変遷、それを演じた女優の人生、時代や体制の変遷に抗いつつ映画を作り続けた女性監督たちの苦闘の軌跡、女性解放運動の動きと女性映画の関連性等を、楽しみながら知ることができます。

『主夫になろうよ！』

佐川光晴／左右社

独身男性の10人に１人が「結婚したら主夫になりたい」、既婚男性の３人に１人が「主夫になっても良い」と答える時代。人に見せるためでなく、自分のために生きようとする全ての人の背中を押してくれる、新しい生き方を提案した１冊です。

主夫の24時間を写真とイラストで紹介したドキュメント、Q＆A形式の「お悩み相談室」、主夫目線で描かれた暮らしのエッセイなど、子育て・家事・仕事を楽しみながら生活する秘訣を、主夫である著者が伝授します。

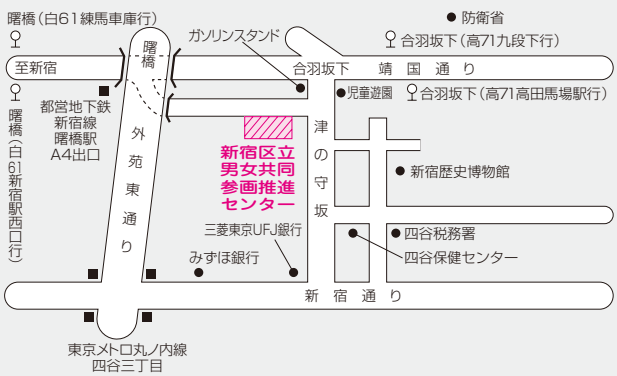
施設案内

３Ｆ	会議室	１Ｆ	受付・事務室
２Ｆ	図書資料室		閲覧コーナー
	交流コーナー		図書カウンター
	悩みごと相談室	Ｂ１	ワーク室

開館時間

月～土曜日
　午前９時～午後８時
日曜日
　午前９時～午後５時

◆図書の貸出し・利用登録
　月～土　午前９時～午後５時
◆会議室の利用
　月～日　午前９時～午後10時
◆悩みごと相談室（電話・面接）
　月～土　午前10時～午後４時



発　行　新宿区子ども家庭部男女共同参画課
新宿区立男女共同参画推進センター
〒160-0007　東京都新宿区荒木町16番地
TEL 03（3341）0801　FAX 03（3341）0740

発行日　平成28年６月30日

この印刷物は再生紙を使用しています。

平成28年度　編集委員会スタート！

『ウィズ新宿』は公募した４名の編集委員と区の協働で作っていきます。３日間の編集講座で基礎を学び、６月より編集会議が始まりました。さまざまな立場や得意分野を生かし、どのような紙面をつくっていくか話し合いを重ねています。125号（10月発行）126号（３月発行）ともに、どうぞご期待ください。

お知らせ

ウィズ新宿とのパートナーシップ講座を開催しませんか

男女共同参画をテーマに、区と協働で講座を企画・実施する団体を募集します。ウィズ新宿の登録団体および新宿区内で継続的に活動する10名以上（過半数が区内在住・在勤）の団体が対象です。
①平成29年３月31日までに開催する　②30名以上の出席が見込め、団体の構成員以外も出席できる　③営利・宗教・政治的な活動を目的としない等の条件があります。

これからの講座

★コミュニケーション力アップ講座 ～一歩前のコミュニケーション力～

①基礎編　６月25日（土）
　「自分らしいコミュニケーションとは」
②実践編　７月２日（土）
　「人との関わりのグループワーク」
③表現編　７月９日（土）
　「右脳アートでコミュニケーション力アップ」
いずれも　午後２時～４時
講師：竹内康代氏（２級キャリアコンサルティング技能士、臨床美術士）

★夏休みおもちゃ工作講座 おとうさんと“うごくおもちゃ”を作ろう！

８月20日（土）　午前10時～12時
講師：井上智陽氏（イラストレーター、水彩画教室主宰、手作りおもちゃ講師）

★女性の視点で取り組む防災

９月30日（金）　午前10時～12時
講師：浅野幸子氏（早稲田大学地域社会と危機管理研究所客員研究員、東京女学館大学非常勤講師）

会場はいずれも男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）。参加費は無料です。

申し込み・問合せは、男女共同参画課☎（3341）0801へ。

編集後記

今回は「新宿区男女共同参画フォーラム」岩崎恭子さんの講演及び「新宿区ワーク・ライフ・バランス推進優良企業の紹介」を特集いたしました。男女共同参画推進センターでは、今年度も様々な情報を発信していきます。また、講座や事業を開催いたしますので、ぜひご参加ください。